

15.自分が見てきた子ども食堂の実態 ボランティア活動を通して発見したこと

御宿智也

1.始めたきっかけと母体

大府子ども食堂「子どもから大人までみんなが集える場所を作りたい」地域のつながりが希薄してきた今、食を通じて顔と顔が見える地域づくり、また、1人で食べている子どもとみんなで「いただきます」できる喜びを感じていただける場にしたいという思いから、水野尊之さんが立ち上げた。

2.これまでボランティアに参加した子ども食堂

①：日時 ②：食事メニュー ③：食事以外のプログラム

第8回大府子ども食堂

① 29年5月20日

②押しずし、鯉のぼりいなり、ミネストローネ、サラダ、フルーツ

③レクリエーションでは専門の先生による体操が行われた。昼食が終わった後のレクリエーションの体操もとても盛り上がり、熱くなりすぎて鼻血をだしてしまっている子どもまでいた。レクリエーションの指導者も専門の先生がしてくださり、親も子どももまた自分自身も楽しめたところがよかったと思う。

第9回大府子ども食堂

① 29年6月19日

②チキンの照り焼き、じゃがいものスープ、ひじきの煮物、きゅうりとナスの酢の物、フルーツポンチ

③今回のレクリエーション行事は「お山の杉の子」という団体が紙芝居や手品、歌を披露してくれました。紙芝居は内容が変わっていて、日本の昔話のほとんどを1つの話にしてしまうなどオリジナリティーが強く、とても面白かった。手品もとても不思議で面白かった。毎月子ども食堂に行っているが、毎回大人でも楽しめるレクリエーションを考えてくれていいと思う。

日進絆子ども食堂

① 29年7月9日

②カレーライス、きゅうりとトマトのサラダ

③この日のレクリエーションは「ファミボド日進」さんによるさまざまなボードゲームをして遊んだ。いままでやったことのないようなボードゲームがほとんどだったので、できれば入手して他の子ども食堂でもレクリエーションとしてできればいいと思った。

第10回大府子ども食堂

① 29年7月15日

②マーボー丼、冷やし中華、トマトときゅうりの酢の物

③この日も前回に続き「お山の杉の子」さんによる紙芝居だった。いつも通り紙芝居をしてくださり、盛り上がるのだが、小さい子どもなどが飽きてしまう場面が見られた。子ども食堂といっているのだから子どもも飽きないような工夫をしないといけないと感じた。

第12回大府子ども食堂

① 29年9月16日

②カレーライス、サラダ

③この日はバランスボールのインストラクターのみなさんが来てくださり、バランスボールによる教室が行われた。子どもから大人、高齢の方までみんな楽しんでいた。特にバランスボールによるフルーツバスケットは懐かしさを感じて面白かった。メニューのカレーライスも顔の形をしており、子どもたちも喜んでいて。水野さんは毎回面白いレクリエーションを考えてくれているので毎回期待している。

第14回大府子ども食堂

① 29年11月18日

②トルコライス、コーンスープ、サラダ、フルーツ

③この日のメニューはトルコライスという、国のトルコではなく日本の長崎県の名物だということの水野さんのお姉さんが説明してくれた。レクリエーションはふるさとガイドおおぶさんによる大府周辺散策でした。コースは鈴木バイオリンの跡地、至学館大学の構内見学、ニッ池の散策、セレクトナ内見学、巨峰を広めた早川ぶどう園。特に至学館大学構内見学では女子レスリング部が練習しており、メダリストの登坂選手や土性選手を間近で見られて参加者たちが喜んでいました。

第1回みよしうきぐも子ども食堂

① 29年11月22日

②水餃子、おにぎり、野菜の煮物、フルーツ

③みよしはプレオープンということでボランティアをさせてもらい、最初はモタモタすることが多々ありましたがなんとか無事終えることができた。たくさんの方の地元のマスメディアのかたが来て、自分たちも「ゼミではどのようなことをやっているの？」など聞かれた。その日のメニューは水餃子で、本場中国の方が作ってくださり、とてもおいしかった。課題がまだまだありそうな子ども食堂だったが、これからも頑張りたい。

第15回大府子ども食堂

① 30年1月20日

②ワンプレートおせち、オキアミチャーハン、お雑煮、チキンの照り焼き、みかん、ゼリー

③今回の子ども食堂は新年にちなんだメニューだった。おせち料理がみんなにふるまわ

れ、みんな仲良く楽しく食事をしていた。レクリエーションのほうではウッドバーニングの先生が来てくださりみんなに教えていた。とても楽しくレクリエーションができた。

3.参加者の分布

大府子ども食堂

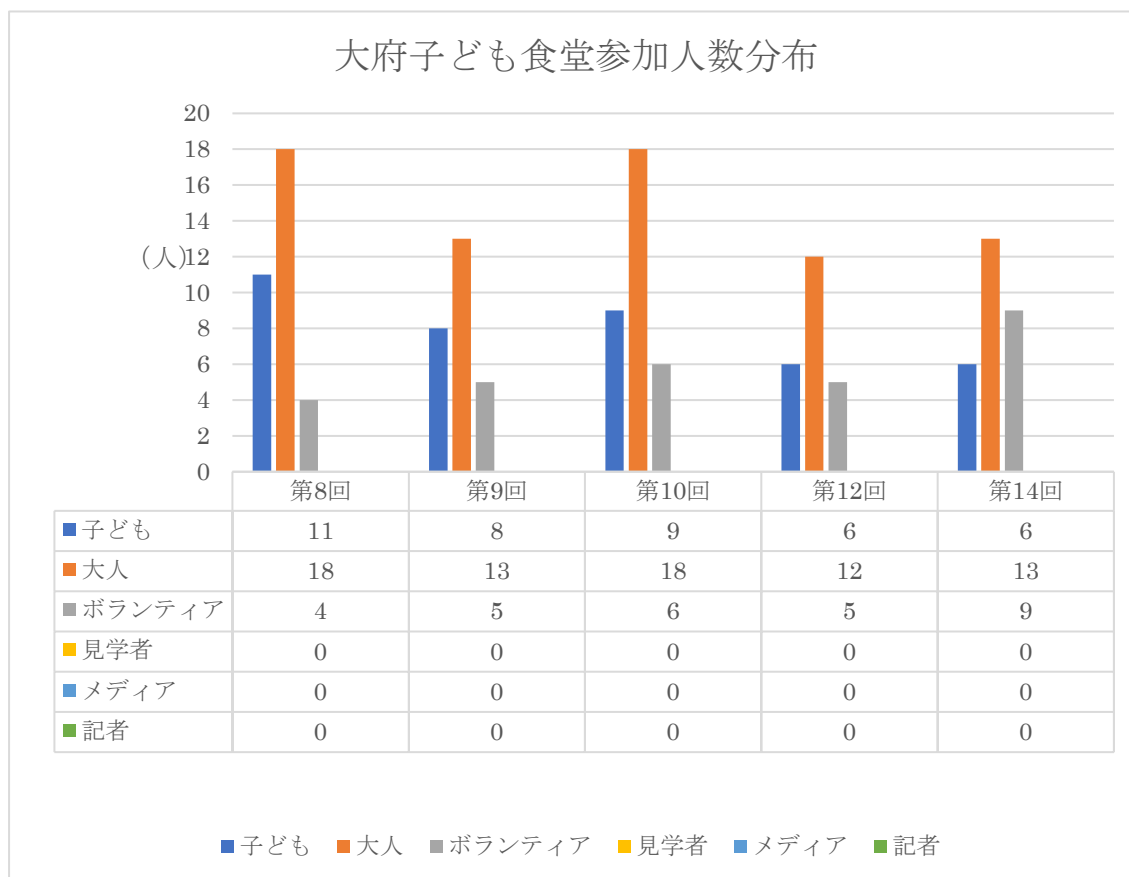


図 1 大府子ども食堂参加人数分布

4.参加者の主な居住地

おもに子どもは大府市の横根町付近に通う小学生が多い。中学生などは私が行った子ども食堂ではいなかった。大人は、第8回の時に代表の水野さんと仲が良い沖縄出身のカメラマンの方が、第10回時には岐阜県土岐市から水野さんの関係でボランティアに来ている人もいた。第14回時にはトヨタ自動車の社員の方がそれぞれボランティアという形で来られていた。他に時々、社会福祉協議会の方が来られていた。

グラフにもある通り、メディアや記者の方は見かけなかった。

5.各子ども食堂が抱えている課題、対策、取り組み

大府子ども食堂

エアコンなどをつけるのにも1,000円くらいかかるなど、施設を借りるのに経費がかかるところだ。子どもも気軽に来れるよう無料にしたらいと思うのだが、なかなかそういうわけにもいかないと思われる。あと、いつも来た人から食べ始めており、一緒に「いただきます」ができるのもっといいと思う。早く来た人が料理を目の前にして待たせているのが申し訳ないのはわかるが、いっしょに「いただきます」をすることは大事だと思う。もう14回やっているのでも地域には根付いていると思われる。定員が30名ほどということもあり、広まりすぎてもよくないと思われる。

みよしうきぐも子ども食堂

プレオープンということで初回はバタバタしていたことが多かったが、無事に終わることができた。しかし、借りていた施設が少し狭く、来た人から食べて出ていくというかたちでしか料理を出すことができなかった。全員が一緒に食べるということは難しいかもしれないが、頑張っていってほしい。うきぐも食堂はまだチラシなどを作っていないと思われる。チラシを作ったほうがもっと地域に根付くのではないかと思う。取材をしていた人がプレオープン時かなりいたので、テレビなどを地域の人が見てすぐ広まりそうだった。

6.子ども食堂を支える関係者マップ

大府子ども食堂

水野尊之さん（代表） ————— 水野さん姉、母（調理担当）

他ボランティアの人（主婦の方が複数）

